

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

太陽の村冒険遊び場キッズバイクパーク整備事業

2 地域再生計画の作成主体の名称

宮城県柴田郡柴田町

3 地域再生計画の区域

宮城県柴田郡柴田町の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地方創生の実現における構造的な課題

東日本大震災以降、柴田町では「健康・体力」に関わる問題が論議になっている。町民全般に関わることだが、特に、子どもの体力水準が全国平均を大きく下回っており、教育環境を含めた行政の対応が強く求められている。

これまでも、子どもの体力向上や健康づくりのために、「歩く」「走る」をテーマに、「フットパス（小径散策）事業」「ノルディックウォーク」「ランニング教室」などを、地元の仙台大学や統合型スポーツクラブの協力を得ながらすすめてきた。今年度は、新たに「運動・スポーツ習慣化促進事業（文部科学省交付金事業）」なども取り入れている。

その中核施設の一つとなる「太陽の村」でも、「遊具整備：遊び場づくり」「ピザレストラン開設」を実現し、また「親子スポーツ体験プログラム」や「ソリ大会」「里山ハイキング」などのイベントを展開しながら、子どもの健康・体力づくりに取り組んできた。

取組みの効果もあり、「太陽の村」施設利用者は10,000人以上増え一定の成果には達成しているものの、目論見としてきた親子体験プログラム等の「親と子の事業」参加者数は、期待する数には至っていない。

柴田町の「地方創生：根幹施策」の一つとする子どもの体力向上・健康づくりのためには、これまで以上に「健康づくり事業」への参加者を募る必要がある、

その現実的な手法：誘因施策として、子どもを対象にする「太陽の村の魅力づくり」が必要となっている。

4-2 地方創生として目指す将来像

【概要】

今回の整備では、太陽の村での遊びを通した子どもの体力の向上と健康づくりを目指している。事業では「キッズバイク」・「木育」という幼児から小中学生を対象とした新たなスポーツ・遊びのコンテンツを導入する。特に、キッズバイクの施設は、県内でも事例が少なく、当面は地元の小学生を対象に事業を進めるが、将来的には、近隣市町や県内外からも参加者が訪れるキッズバイクのレース大会の開催を目指している。さらに、今回整備するキッズバイクの管理棟は、柴田町が進めるロードバイクによる“自転車ツーリズム”や“近隣の市町と連携した自転車による広域圏周遊・観光”の拠点施設（休憩（宿泊）・交流）としても位置付けられており、併せて整備することで、施設の魅力や利便性の向上を図ることが出来る。

太陽の村を“サイクルスポーツ”をキーワードに、子どもから大人までが楽しめ、家族連れを中心とした交流や宿泊が出来る、一大拠点施設として整備することで、町全体の交流人口及び施設の売上げの拡大が期待できる。

【数値目標】

K P I	事業開始前 (現時点)	2019年度増加分 1年目	2020年度増加分 2年目
太陽の村 事業収入 (千円) (宿泊、レストラン、イベント他)	26,012	0	800
太陽の村 入込み客数 (人) (施設利用者、遊具利用者)	31,147	0	2,250
太陽の村 従事職員雇用数 (人)	7	0	1

2021年度増加分 3年目	2022年度増加分 4年目	2023年度増加分 5年目	KPI増加分 の累計
1,200	1,402	1,800	5,202
2,500	3,000	3,103	10,853
0	1	0	2

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2の③及び5-3のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ 地方創生拠点整備交付金（内閣府）：【A3007（拠点整備）】

① 事業主体

2に同じ。

② 事業の名称

太陽の村冒険遊び場キッズバイクパーク整備事業

③ 事業の内容

- 事業内容は、施設整備として、①既存の研修施設を“キッズ遊びの棟”と位置付け、1Fは室内遊び場（町産木材100%による内装や遊具を活用した木の温もりを体感できる、幼児の遊び・健康づくりの空間）として、2Fは主にキッズバイクパーク利用者のための休憩・宿泊・研修施設（子ども会等の合宿利用を見込む）として模様替え、②旧バーベキューセンターは“キッズバイク管理棟”として模様替えを行い、キッズバイクの保管やメンテナンスを行うほか、自転車ツーリズムの拠点機能として、輪行者の休憩（キャンプ泊可）、情報交換、交流の場として活用する。効果促進事業としては、①通年利用が可能なキッズバイクの常設公認コースの整備、②キッズバイクやメンテナンス用具の購入を行う。単独事業（交付金事業対象外）としては、定期的なキッズバイクの体験講習会、バイクレース大会

、木育や軽スポーツイベントの開催、木製遊具の購入等を予定している。今回整備するキッズバイク関連施設では、コースの利用も含めた自転車・防具等のレンタルを行い、維持管理の財源（2,000千円）確保を図ることとしている。その他、キッズ遊びの棟を活用した宿泊（2,000千円）や施設の入込み客数の増加に伴うレストラン、らぼるの森の利用者が増える（1,000千円）ことにより、観光物産協会の売上げが年間5,000千円以上増えることを見込んでいる。

④ 事業が先導的であると認められる理由

【官民協働】

- 地元の仙台大学（体育学科、健康福祉学科、運動栄養学科、子ども運動教育学科等）は知見、実学ともレベルが高い。現在も、町スポーツ振興課や健康推進課と連携し、小中学校で体力・運動テストと体力向上の運動指導や部活動のサポートを、町民には“運動・スポーツ習慣化促進事業”として健康測定とストレッチ・体操・筋トレ等を地域毎に実施している。今回の事業では、キッズバイク事業の運営支援と“キッズ遊びの棟”の木育仕様の設計支援、木を使った遊びの運営支援について協力を予定している。
- 柴田町総合型地域スポーツクラブは、柴田町体育協会の下部組織として、町内小中学生を対象にしたスポーツ教室や町民を対象とした健康づくり・体力向上に向けた軽スポーツの普及等の取組みを行っている。太陽の村では、平成27年度から親子体験プログラムやプラソリ滑り大会（ボブスレー・リュージュ部）で連携しており、最近では芝生ヨガや足育かけっこ教室など子ども対象のメニューも取り入れている。今回の事業では、キッズバイク事業の運営支援と木を使った遊び（木育）の支援について協力を予定している。
- 自転車ツーリズムでは、県内で観光情報誌を発行する（株）ユーメディアに自転車ツーリズムに関するマーケティングとイベント等の運営支援について協力を予定している。また、キッズバイク関連の自転車メー

カーからの体験講習会やレースコースの設計支援、レース大会の運営支援についても協力を予定している。

- 町及び柴田町観光物産協会は、太陽の村の目指す目標（自然の中での遊びを通じた健康づくりや体力の向上）を町内外の多様な事業主体（交通・宿泊、観光、子育てサークル、保育所・幼稚園・小中学校、柴田高校、仙台大学、地域ボランティア、柴田町体育協会等）へ広く情報提供を行い、連携体制の構築を図る。

【政策間連携】

- 柴田町観光物産協会は、町や(株)小さな拠点ネットワーク、（社福）はらから福祉会（らぼるの森：ピザと牛タンの店舗）、太陽の村冒険遊び場整備推進協議会と連携し、施設を活用したイベントと健康づくりのライフステージに合わせた交流人口のワンストップ窓口としての機能の構築を目指す。
- 町は、柴田町観光物産協会、仙台大学、総合型地域スポーツクラブやスポーツ団体、サイクルメーカー等との連携を図り、太陽の村での自然を生かした健康づくりに取り組み、町民の健康寿命の延伸、体力の維持・向上を目指す。
- (株)小さな拠点ネットワークは、柴田町観光物産協会と協力し、サイクルスポーツを含む遊びを通じた健康づくりや体力向上、体験等イベントの企画・誘致を行い、「稼ぐ」仕組みを支援する。また、地域おこし協力隊と連携し、里山ハイキング、フットパスのコースを活用した交流の場を提供する。
- 観光関連業者と連携し、子どもを中心としたスポーツ体験及び森林浴や自然観察等の体験型観光を提供し、リピーターの増加を目指す。
- 仙台大学と冒険遊び場整備推進協議会は、専門知識や人材を活用して、子どもたちが自然の中で遊びを通じて健康づくりや基礎体力の増強、冒険心を養える指導者育成に取り組む。

- 柴田町は宮城インバウンドDMO等とも連携し、船岡城址公園や一目千本ざくらの白石川（隣接する大河原町～白石市）、阿武隈川（亶理町～角田市～丸森町）と太陽の村を「桜の回廊」で周遊する自転車ツーリズムのコースの開発に取組み、インバウンドを含めた広域的な誘客を目指す。

【地域間連携】

- 柴田町は宮城インバウンドDMO推進協議会等と連携したキッズバイクのイベントを開催することで、太陽の村の魅力（子どもの遊び場、自転車ツーリズム、宿泊研修施設）をアピールする。
- 柴田町は、仙台市内や仙台空港からも20数km圏内で、自転車で訪れる輪行者も増えている。太陽の村や里山を生かした“自転車による広域圏周遊・観光”の連携拠点施設としての利便性の向上を目指す。特に、隣接する大河原町でも一目千本ざくらの白石川堤を中心に拠点施設整備の計画を進めており、今後緊密に協議を進める。
- 町内外の多様な事業主体（交通・宿泊、観光関連、子育てサークル、幼稚園・小中学校、柴田高校、仙台大学、地域ボランティア、柴田町体育協会等）との連携を図り、誘客と収益及び雇用の増加を目指す。
- 仙台大学や同大学OBのネットワークの活用、隣接県の大学のスポーツ系・文化系サークル等への積極的な情報提供を行い、新たな利用者を開拓する。

【自立性】

- 観光物産協会は、既存の親子体験プログラム、遊具やキッズバイクでの遊びの活動が、年間を通し子どもの健康づくりや体力向上に有機的に結びつくよう、積極的にイベントを企画・誘致・開催する。保護者を含めた子どもの利用を増やすことで、宿泊やレストラン・物販販売等の自主事業による収入を安定したものに育てる。今回整備するキッズバイク関

連施設では、コースの利用も含めた自転車・防具等のレンタルを行い、維持管理の財源（2,000千円）確保を図ることとしている。その他、子どもや保護者のキッズ遊びの棟を活用した宿泊（2,000千円）や施設の入込み客数の増加に伴うレストラン、らぼるの森の利用者が増える（1,000千円）ことにより、観光物産協会の売上げが年間5,000千円以上増えることを見込んでいる。

⑤ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

■ 4-2の【数値目標】に同じ。

⑥ 評価の方法、時期及び体制

【検証方法】

■（一社）柴田町観光物産協会は、指標値の達成状況を毎年作成し総会に諮る。その後、行政と観光物産協会が同席し、柴田町総合戦略推進委員会がヒアリング等を行い、事業の検証と推進委員会との相互理解を図るとともに、観光物産協会は、その結果を基にPDCAサイクルにより各事業に取り組む。

【外部組織の参画者】

■産官学金労言等の各界から委員12人で構成された柴田町総合戦略推進委員会により検証を行う。また、検証会議は、原則公開で実施する。

■委員会構成／産5人（商工会員・工場等代表、女性起業家、農業従事者観光業者）、官1人（宮城県）、学1人（仙台大学）、金1人（金融団代表）、労1人（町内労働組合）、言1人（インターネット会社代表）
その他2人（町内新規就業者、福祉関係会社代表）

【検証結果の公表の方法】

■毎年度、町のホームページで公表する。また、議会においては、毎年6月開催の議員全員協議会において状況を報告する。

⑦ 交付対象事業に要する経費

- ・法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 135,000千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日から2024年3月31日まで

⑨ その他必要な事項

特になし

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 太陽の村冒険遊び場キッズバイクパークサポート事業

ア 事業概要

- 柴田町は、キッズバイクパーク整備事業のサポート事業として、サイクルメーカー等と連携し、キッズバイクやマウンテンバイクの体験講習会やバイクレースを開催し、サイクルスポーツの普及と魅力のアピールに努め、参加者の拡大を図る。加えて、軽スポーツや木育遊び・自然観察などを来訪者に提供し、にぎわいづくり・交流人口の増に取り組む。
- 上記に関連する木育遊具等の購入。

イ 事業実施主体

2に同じ。

ウ 事業実施期間

2020年 4月 1日から2024年 3月31日まで

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から2024年 3月31日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

5-2の⑥の【検証方法】及び【外部組織の参画者】に同じ。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

4-2に掲げる目標について、7-1に掲げる評価の手法により行う。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

5-2の⑥の【検証結果の公表の方法】に同じ。